



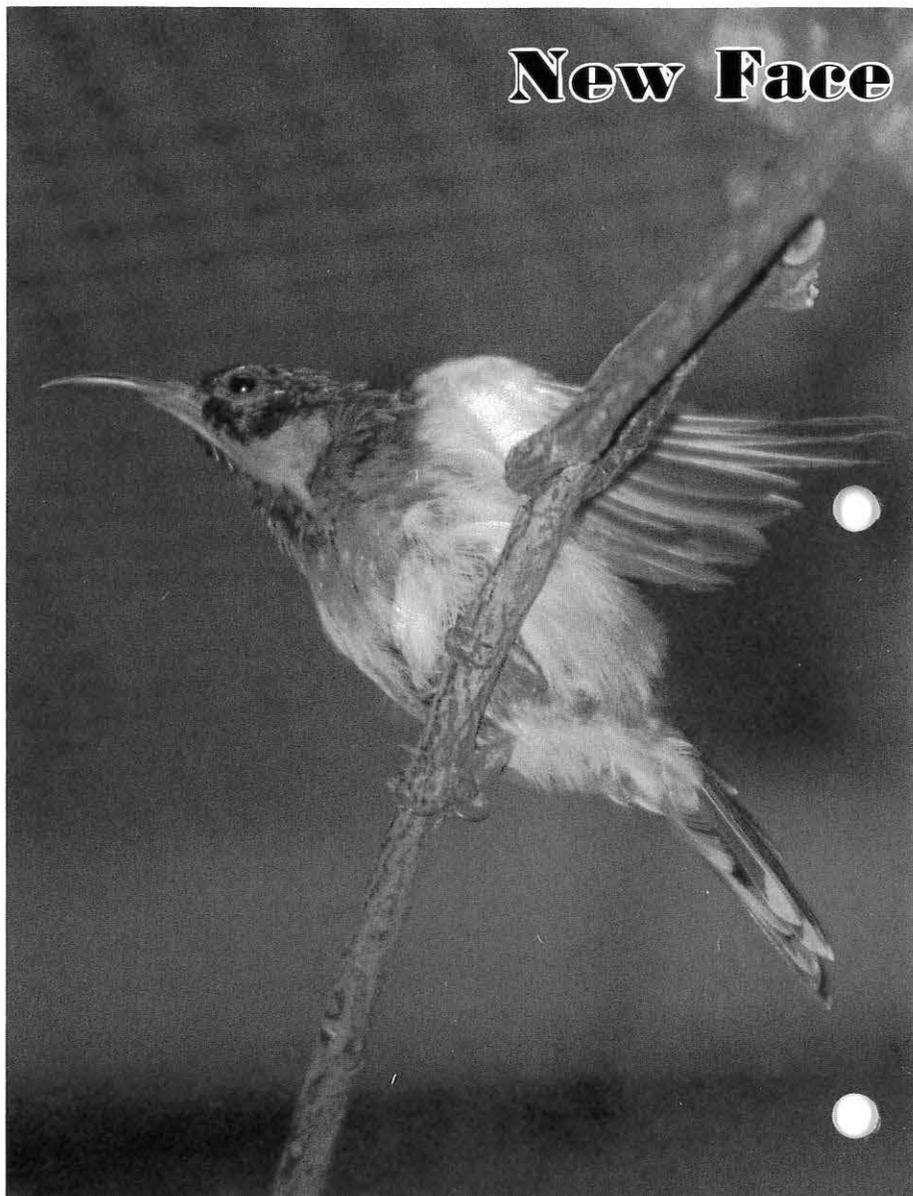
# なきごえ



1994

5

# New Face



(撮影：前田 茂)

- 2 — New Face
- 3 — 動物と私 シラサギが飛ばなくなった時(池谷奉文)  
カバーウォッチング オジロワシ
- 4 — 行徳野鳥観察舎から(運尾純子)
- 6 — インド訪問記(宮下 実)
- 8 — グラフZOO ホッキョクグマ一家の1日(永田健一)
- 10 — ケンちゃんの好きやねん動物園(松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY

## カバーウォッチング

オジロワシ  
タカ目 タカ科

*Haliaeetus pelagicus*

海ワシの仲間で、主に魚を獲物にしています。ユーラシアに広く分布しており、日本では北海道の知床半島や根室付近、道北部で繁殖しています。

(撮影：西田俊広)

## ||||| 動物と私 |||||

### — シラサギが飛ばなくなった時 —

**私**は、「おまえは卵から生まれてきたのだろう。」とよく言われました。生まれ故郷の静岡県御殿場は野鳥の多い所だったということもあり、子供の頃から野鳥が好きで、大好きだった野鳥を助ける仕事がしたくて、獣医師になったほどです。

獣医師になった私は、埼玉県で開業したのですが、ちょうどその時、国の特別天然記念物に指定されていた浦和市の「野田のサギ及びその繁殖地」通称野田のサギ山でサギの営巣がみられなくなり、近くの浦和市三室に営巣地が移ったことを知りました。野田のサギの営巣数の激減のさまはずましく、昭和40年には3,140個あった巣が、昭和41年に1,655個、43年に492個、47年にはついにひとつの巣もなくなってしまったのです。その野田から三室へ営巣地が移ったのですが、三室でもヒナが死亡していったのです。落鳥したサギを悪戦苦闘しながら保護していた地元の武中さんに案内されて三室のコロニーにはいっていくと、親鳥が飛び去ると同時にヒナが巣からポトポトと落鳥します。落ちたまま衰弱して動けないヒナや枝にひっかかってそのままになった死骸もたくさんあり、凄惨をきわめた光景でした。

私はなんとかこのサギを救いたいとの一心で、

### ルリオタイヨウチョウお目見え スズメ目 タイヨウチョウ科

3月15日、“小鳥の家”にお目見えしました。ヒマラヤから東南アジアに生息する全長10cm余りの小鳥で、花の蜜を餌にしています。



池谷奉文さん

(日本生態系保護協会会長)

開業したばかりの病院にフライングゲージをつくり、衰弱したサギを保護治療し、野生に戻すというのを始めました。多いときには60羽のサギを保護していましたから、文字通りサギの面倒に明け暮れる毎日でした。

**野**田のサギ山は最盛期には巣数が6,000個を数え、総数3万羽のサギが生息していました。これだけのサギの生息を可能にしていたのは、営巣地となる森林とその周辺の広大な水田地帯でした。ところが、高度経済成長期に入り、道路の整備と交通量の増大、工場や宅地等の造成が進むと、サギのエサ場である水田や湿地、池沼は埋め立てられ、森林は減少し、生息環境は分断され悪化の一途をたどっていきました。

そして、直接サギの生息に打撃を与え、絶滅の止めをさしたのは、農薬の空中散布でした。サギ山の様子を日常的に観察していると、農薬の空中散布後には落鳥数が極端に増えるのです。サギだけでなく、ツバメやサシバのヒナなどが次々と落鳥したことが何回もありました。これは大変なことが野鳥に起こっている、こうしたことが全国で起こっているに違いないと思い、日本の将来に対するいいようもない不安感にかられたのを今ははっきり覚えています。

こうした活動をはじめた6年目、私の願いもむなしく三室の営巣地も絶滅してしまいました。そして、昭和59年、特別天然記念物指定が日本で初めて解除になったのです。私はこの経験をきっかけに、意識的に自然の生態系を守る活動に入っていました。シラサギの飛ばなくなった田んぼを見ながら、日本の進んでいる方向を変えなければならぬと心に誓ったのです。しかし、その活動はまだ実っていません。現在の日本の野鳥は、たったこの30~40年で、100分の1に減少したと思っています。

(いけや ともふみ)

マンションの建ちならぶ街並の間から、黒々とした新浜鴨場の松林が見えてきました。地下鉄東西線「行徳」駅を下りて徒歩20分、かつての舟溜まり跡の「福栄公園」横を歩いてさらに何分か歩くと、目の前に水面とアシ原が開けます。正面の白い建物が私の勤め先、行徳野鳥観察舎です。

#### ◆新浜(しんはま)から保護区へ

かつて東京湾の奥には広大な干潟と湿地がひろがっていました。なかでも江戸川放水路と江戸川に囲まれた浦安、行徳の一角は、中心にある宮内庁新浜鴨場の名から「新浜(しんはま)」と呼ばれ、種類や数の多さでは日本屈指の水鳥の楽園でした。昭和30年代後半の高度成長経済政策で、このあたりは激しい地盤沈下にさらされ、水田は蓮田から沼沢地にかわりました。漁業の見通しも暗く、東京に近い地の利を生かした住宅地、工業用地へと開発が進められ、湿地や干潟が埋め立てられて行きました。すみやかな発展を希望していた地元と野鳥保護運動が真っ向からぶつかり、「鳥かか」というきびしい対立の折衷案として生まれたものが現在の保護区です。

昭和50年、保護区の一部にプレハブ2階建の野鳥観察舎(旧館)が



行徳野鳥観察舎

きました。その年の12月以来、私たち夫婦は住み込みの管理員として働いています。利用者の急増で手狭になった旧館に代わって、昭和54年には44台の望遠鏡を備えた3階建の新館が建てられ、平成3年には傷病鳥救護棟が増設されて現在に至っています。

観察舎は千葉県立で管理運営は市川市に委託され、市職員2名が常勤、私たち夫婦は市嘱託として常駐、ほか非常に非常勤職員が勤務しています。

#### ◆保護区がかかえる問題

鳥の保護区域といえば、ひろびろとした林や水面がイメージされるでしょう。しかし、行徳野鳥観察舎は周囲をマンションや学校、湾岸道路などに囲まれ、観察舎のすぐ隣まで住宅地が続いています。新浜鴨場とあわせて約25万坪という面積は、窓から眺めるかぎり、さほど広くは見えません。しかし、坪120万円を越す行徳の地価を考えると、首都圏としてはかなりの広さと言えます。

広いなあ、と思うのは、保護区の中を歩いたり、管理作業をする時。全体が水鳥に好ましい環境であれば、それなりにずいぶん役に立つ土地です。

鳥や自然のために確保された貴重な面積。しかし、保護区にはいくつもの問題点があります。なによりも困るのは、水鳥にとって必要不可欠な淡水の池や湿地が少ないこと、また干潟の面積が少なく、生物が少ないことです。

この保護区は地盤沈下が激しい時代に計画されたため、将来の沈下を見越し、海面から2mも嵩上げて土盛りがされました。ところが皮肉にも、保護区が設定された昭和45年から地下水汲み上げ規制が効いて地盤沈下が止まり、湿地というよりは乾燥した草原が出現することになりました。

一方、必要な土量確保のため、海域は泥の採取で深くなり、さらに周辺の埋立地から造成時の上澄みの泥水が流し込まれました。非常に粒子の細かい泥(粘土)を含むため、海に流せば漁業被害を起こし、放置すれば乾燥が進まずに問題となる泥水です。このため保護区の表層は粘土におおわれ、生物が住みにくい状態になりました。

#### ◆排水は水資源

全域をおおう粘土層はすぐには解決できない難問ですが、乾燥した草原に池を掘り、水を導入すれば湿地ができます。しかし雨水だけでは足りません。どこに水源を求めればよいでしょう。そこで目をつけたのは、観察舎のすぐ前にある生活排水の流路です。昔の丸浜養魚場に沿っていることから「丸浜川」と名づけ、養魚用の水車をまわし



丸浜川の水車

て水に酸素をふきこむ実験を始めました。沖縄大学の宇井純先生の指導を受け、トヨタ財団の研究コンクールに入選して得た助成金で、行徳野鳥観察舎友の会が独自に取り組みました。おもしろいことに、1台の水車だけで水中の酸素が明らかに増加し、水車が3台にふえてからは泥底に生物が戻り、少しずつ水の状態がよくなりました。

次は保護区への導入です。延々8ヵ月以上をかけてようやく許可を勝ち取り(市川市を通じて提出し、千葉県から大蔵省に上げて認可を得るというものです)計1ヘクタールほどの2面の浅い池を作って丸浜川の水を入れました。家庭排水が水源というどぶ浜川の水は、酸素導入で微生物や藻類が増加した状態で池に入り、浅い池で日光や空気にさらされます。水中の汚濁物質を餌にして育った微生物が顕微鏡的な生物の餌となり、やがてミジンコ、ボウフラといった肉眼サイズの生きものが育ちます。ヤゴやボウフラが羽化してトンボや蚊が空中に飛び立ち、魚が鳥に食べられたりすれば、生物の体という形で水中の有機物が水から除かれることとなります。鳥の餌場になる湿地で水中の食物連鎖が回復することは、そのまま水の自浄作用につながるわけです。

1988年、完成後わずか8ヵ月の池で、日本ではまだ非常に数が少ないセイタカシギが繁殖をはじめ、現在も毎年巣を作っています。セイタカシギのヒナは、ふ化した日から親に守られて自力で餌をとります。どぶ川の栄養物から育った水中生物がヒナたちの餌です。

昨年、千葉県によってまた一つ新しい池が造成されました。行徳地区最大のポンプ場で、非常に汚れた生活排水のため池である浸排水機場遊水池に水車を2台入れて酸素を吹き込み、この水をポンプアップして棚田状のごく浅い池を通し、浄化が進んだところで少し深めに設定した池本体に流し込むという計画です。水車やポンプ、パイプ購入、電気工事など131万円にのぼる経費は、地元の市川南ロータリークラブが負担してくれました。この5月にはロータリーの指導や協力ですべての池の造成が完了しました。行徳で生まれ育ち、原風景でもある新



セイタカシギの親子  
(石川勉撮影)



池の造成

浜の面影を保護区に再現するというのがロータリーのかたがたの夢です。パイプライン設置や造成プラン、許可申請、そして調査、管理といった手作業はすべて友の会がやりました。行政、地元、保護団体が一体になって進める初めての試みです。

#### ◆野鳥病院

観察舎での仕事は掃除、ゴミ片付け、利用者のかたがたの応対や観察指導、観察路整備、草刈りなどなどさまざまですが、比重が重いのは傷ついた野鳥の救護です。救護棟が完成してからは毎年400羽以上の入院があり、4割死亡、4割放鳥、残る2割前後は生涯飼育となります。常時40種近く、150羽あまりの鳥をかかえるようになりました。

負傷原因のほとんどは高圧線衝突、窓衝突、交通事故、釣り糸事故など人間に責任があるものです。しかし傷ついた鳥の救護というのは、本来の自然保護活動とはまったく別ものと考えています。おそろしく時間と手数がかかるうえ、無事に放せても完全に野外復帰したと自信がもてるものは何割になるでしょうか。しかし、傷ついた鳥を目にした人がなんとかして助けたいと思う気持は貴重で、環境保全の意識につながる大事なものだと思います。

ただし、傷病鳥救護にかまけてかつての新浜の復元といった本来の目標に手がつけられないのは少々つらい現実です。現在のところは民間団体である友の会の活動にほとんどを頼っており、私たちも休日や夜を利用して携わるほかありません。

#### ◆さて……

現在の保護区は、26年前に提出された千葉県の行徳地域問題審議会の答申に基づいて造成されました。いろいろな問題を抱えているとはいえ、この保護区は鳥や自然のために確保された貴重な地域です。しかし、答申にはもう一つの内容がありました。「将来の埋立計画との関連の上、前面に恒久的な干潟を確保する」現在市川2期埋立の計画が出され、存続が危ぶまれている三番瀬干潟がまさにそれにあたります。東京湾でもっとも豊かな三番瀬干潟は、現在の保護区で見られる鳥の大多数にとっての貴重な生活の場です。

行徳野鳥観察舎で私たちが続けているのは、一度失われた自然をなんとかして復元しようという試みです。この試みから得るものは大きく、心から楽しむことができるライフワークでもあります。しかし、消失した干潟や湿地は再現できるものだろうか、と冷静に自問すると、自分の世代のうちにはとうとう無理だと答えるしかないようです。

私たちにできることは、今あるものを最大限に活用し、保全し、更に未来への種子をしっかりとまくこと。そのためには行徳野鳥観察舎とこの保護区はたいへんめぐまれた土地かもしれません。どうぞ、見にいらしてください。

(はすお すみこ)

# インド訪問記

—シシオザル国際シンポジウムとインドの動物園—

昨年10月、インドのマドラスでシシオザルの国際シンポジウムが開催され、日本での現状を報告するために出席いたしました。その概要とあわせ、訪問した2カ所のインドの動物園についてもご紹介しましょう。

インドへの出張の途中、用務のために2日間シンガポール動物園に立ち寄り、再びインドに向かったのは10月8日の午後でした。インドは私にとっては初めて訪ねる国で、不安と期待が入り混じった状態で経由地のボンベイに午後4時前に到着しました。暑さと騒音、人の多さには驚かされると聞いていましたが、確かにそのとおり。空港に降りた途端、吹き出てくる汗に閉口しました。汗をふきふきタクシーで市内へと向かいましたが、かなり古い、おそらく20年以上も前の自動車が雑踏のなかを派手にクラクションを鳴らしながら精一杯のスピードで飛ばすのですから、冷や汗もでていたことでしょう。クーラーなどは付いていませんから窓は開けっ放しです。色々な匂いをかぎ、ごみごみした景色を眺めながらやっと到着したのはボンベイ市南端のインド門近くの安宿でした。動物園近くのホテルと条件を付けたのですが、地図を見るとかなり離れており、どうもタクシーの運転手に一杯くわされたようです。一応クーラー、テレビ、シャワーがあるので投宿しましたが、いずれもかなりお粗末な代物でした。

翌朝、歩いてほど近い所にボンベイ自然史協会があるので、動物園に行く前に立ち寄りました。インドの自然科学関係の展示と書籍などを販売しており、インドの哺乳類の本と動物関係の資料を買い求めました。

ところで動物園に行く途中で2つのハプニングに遇いました。1つはインド名物のヘビ使いに呼び止められ、猛毒のコブラを笛で踊らせるから写真を撮れと誘われました。興味もあったし、しつ



インド名物のヘビ使い

こく勧めるので何枚か写したところ、案の定、金を要求されてしまいました。2つ目は自称ボンベイ大学の学生が道案内をしたいと話しかけてきましたが、もう騙されないぞという決意も、彼が獣医学科の学生と聞くに及んで、この異国の地で同業者に会うなんてなんと奇遇だろうとすっかり意気投合してしまいました。しかし30分も経たない内に見事に騙され、金を取られてしまいました。この2つの出来事ですっかり意気消沈し、暑さと騒音と人込みにバテ気味になりながらも、どうにか動物園へとどり着きました。

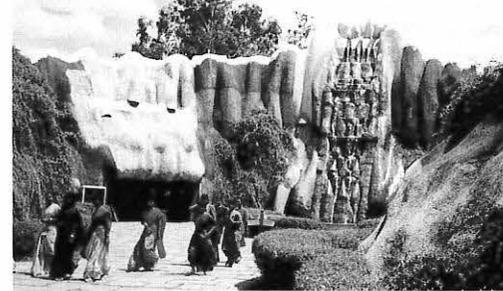
ボンベイ動物園はビクトリア公園の一角にあります。入り口でワニ獣医師に面会を請いました。公園の中に動物舎が点在しているといった感じで、大きな樹木と豊かな緑の中でゆったりと見学できるようになっていました。1866年の創立と大変古いだけに、施設も老朽化して金網が錆びついたものが多く、安全性に疑問を感じるようなものもありました。ヒョウの赤ちゃんが生まれていましたが、母ヒョウを隣に追いやり、抱っこまでさせてくれたのには驚きました。ありふれたようなハト、キジ、インコなどの類が多く、カバやインドサイ、インドゾウなどの大型動物が目につくくらいで、動物の数も少なく、インド有数の大都市ボンベイの動物園とはとても思えないほど貧弱な印象を受けました。シシオザルは100㎡くらいありそうな広いケージでオス1頭、メス2頭が飼育されていましたが、内部には適切な止まり木も設けてなく、不健康そうでした。かつてはよく繁殖もしたとのことですが、現在は老齢化し、繁殖もしていないということでした。

午後の便でマドラスへと向かいました。空港には予約してあったホテルから車が迎えに来ており、昨日とは雲泥の差です。午前中のモヤモヤを吹き飛ばすべく盛大に飲んで、明日からの長い会議に備え早々に寝ました。

翌日、シンポジウムに先立つCBSG(飼育下繁殖専門家集団)南アジア地区会議は午後から始まりますので、午前中はタクシーを借り切りマドラス市内を見学しました。州立の博物館は数多くの標本がありなかなか興味をそそられましたし、蛇園でもインド産の種々の爬虫類を見ることができました。途中で運転手に頼んで大衆食堂に連れていってもらい、インドの人が日常食べる食事にもチャレンジしました。辛いのと安いのには驚かされましたが、マドラスはボンベイとは随分異なり、町並みもきれいですし物乞いの人もあまり見かけませんでした。

午後、郊外にある動物園へと向かいました。シ

ンポジウムの通知には空港から very looong distance とありましたが、確かにそのとおり。信号のない道を約45分かけてマドラス動物園(正式名称:アリグナ・アンナ動物園)に到着しました。



マドラス動物園の入場門

この動物園は1985年に市内から移転して開園したとのことですが、交通事情の悪いインドだけに入園者への影響はないのかと思いました。しかしボンベイ動物園にくらべはるかに多くの入園者で賑わっていました。ボンベイは市立でしたがここは州立です。入園料は2ルピー(約8円)で、カメラを持参していると撮影料としてさらに2ルピー加算されます。動物園は新しいだけにゲートもモダンであり、動物舎以外の施設、レストランやレクチャールーム、資料館なども一応整っていました。園内はとにかく広く、歩いて回るのは大変なため、トラムカーが走っていました。なにしろ園の面積は250haもあり、当園の22倍では比べよう



入園者に便利なトラムカー

もありません。展示施設のほとんどは無柵放飼式のもので、動物舎的な建物が少ないのが1つの特徴と言えます。希少なインドライオンの放飼場は、かなり離れた山の頂上までであると聞いて驚かされました。毎年繁殖をしており余剰もあるとのことでしたが、純粋なインドライオンを有している動物園は世界でも少ないだけに、うらやましく思いました。外国産動物は思いのほか少なく、ブラックバックやサンバー、ガウル、インドライオン、シシオザル、オオヅルなどのインド特産の動物が目をひきました。シシオザルはかなり広い放飼式の島で、周囲は水堀になっており、8頭飼育されていました。今年は2頭生まれており、繁殖は順調とのことでした。

シシオザルの国際シンポジウムは1982年にボルネオで第1回目が開催され、以後シアトル、サンディエゴ、そして今回シシオザルの原産地であるインドに会場を移し、マドラスにおいて開催されました。1日目は主に飼育下の状況や飼

育下での生態、新しい計画、国際的な飼育個体群の総括、DNA解析による遺伝学的な管理などの問題を中心に報告、討議が行われました。2日目はインドの研究者を中心に野生状況や個体数、保護管理、野生下での食物などの報告が行われました。今回の参加者は約70名と前回の100名に比べ減少しましたが、米国とインドという地の利を考えればやむをえないことでしょう。CBSG会長のシール博士やシシオザル国際血統登録担当者のグレッグ博士、IUCN(国際自然保護連合)のユード博士、サンディエゴ動物学協会のリンドバグ博士、コロラド大学のサウスウィック博士などそうそうたるメンバーに加えボルネオ動物園、サンディエゴ動物園などの動物園関係者、英国チェスター動物園のイラストン哺乳類課長、ドイツ霊長類研究所のカウマンズ博士などが参加していましたが、前回のシンポジウムやCBSG国際会議などですっかり顔なじみになっていましたので、久しぶりに旧交を温めました。

私の発表は第1日目の午前中の2番目に予定されていましたが、今回は誌上で報告だけだと思いついでで発表原稿を用意していなかったから大変です。原稿なしではとても20分もしゃべれません。とりあえず午後からの部にまわしてもらい、昼食時間に大あわてで原稿を作成し、どうにか日本のシシオザルの現状と今後の繁殖計画について報告することができました。それにしてもこんなに焦



発表中の筆者

たのは滅多にないことでした。幸い会議集—これが2cmの厚みはあろうかという印刷物で2冊もあり、これに今回のテーマ別の原稿が掲載されている—に『日本のシシオザルの現状と繁殖計画』と題する7頁におよぶ英文原稿を載せてもらっていたので、ここに使用したグラフ、表が役に立ちました。

シンポジウムに参加して感じたことは、このような席で日本の状況を直接説明するからこそ海外の人達にも理解してもらえるのであって、単に文書や書簡でいくら訴えてみたところで、なんの理解も反応もないでしょう。そういう意味でこのシンポジウムで多くのシシオザル関係者と交流を深め、日本の話題も提供できたことは大きな収穫でした。また、当面日本は国際的な支援を仰がねば繁殖計画を軌道に乗せることは困難ですが、いずれ近い将来、国外へ提供できるシシオザルを日本が有するようになれば、積極的に協力したいと発表を締めくくりました。期待と歓迎の大きな拍手を受け、大変うれしく思いました。

(飼育課:宮下 実)



# YUKIO

父親の“ユキオ”です。今は母子と別居中。午前中だけお目見えです。



# YUKIKO

母親の“ユキコ”です。3頭目の娘はやんちゃなので子守りにたいへんです。



# ???

11月27日に生まれたの。今、名前を募集しているから、かわいい名前をお願いネ!

## グラフZOO ホッキョクグマ一家の1日

3月号のNew Faceで紹介しましたホッキョクグマの赤ちゃん。3月15日からかわいい姿をみなさんにご覧いただいています。

(撮影：永田 健一)



子「あのね、お母さん」  
母「な～に、立ったらあぶないわよ」



水ぎわで大好きな水遊び。  
でも、まだ泳げないからチョッピリ怖いな～



ノドがかわいたのでチョットひと休み。  
プールに落ちないようにネ!



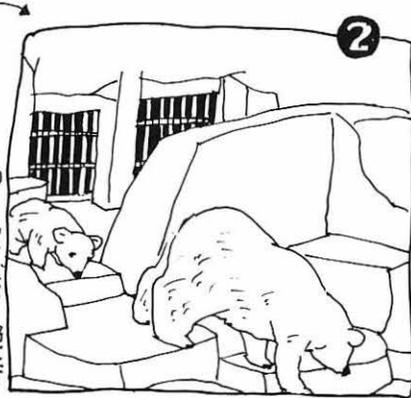
遊びすぎて、お腹ペコペコ。  
「お母さん、おチヂ飲ませて」

# ペンちゃんの好まぬ動物園 マンガ 松葉 健

平成5年11月27日に生まれたホッキョクグマの赤ちゃんが、まよ(3月14日)初めて寝室から屋外放飼場へ出るというのを見にいきました。鉄の格子が開くとまず、母さんグマが、続いて赤ちゃんグマが「スゴスゴ」と出てきました。



母さんグマは去年の11月の初めから、真暗にした産室に入っていたので、久しぶりに屋外の空気にふれて臭いをかぎ回っていました。白クマの毛色も茶色になっていました。



赤ちゃんは元気なメスで、こんなにものおじしな子も珍しいとか。ホッキョクグマは北極圏に生息して、メスは冬に雪の洞穴をつくらせの中で赤ちゃんを産むそうです。



そこで動物園の産室をみせてもらいました。

メスの寝室は2つあって、その1つが産室でした。周囲をベニヤ板でかこい、明け方や音をしゃ断し、給水とマイクを設置して、赤ちゃんを待たせました。



寝室の裏側にまわると、通路の空地にエサや掃除の道具が置いてありました。エサは、1頭でパン13コ、白菜を半分、ソーセージ5本、リンゴはたまに1コか2コが1日分。

赤ちゃんが生まれる前と後の1年数か月くらいは別居させられるかわいそな父さんグマ。



- 3/1. 暖かくなってきたので、カバを屋外に展示することにしました。
- 3/2. 1月1日から人工ふ化を試みていたエミューの卵は、検卵の結果残念ながら無精卵でした。
- 3/3. ヒツジの赤ちゃんが1頭生まれました。爬虫類舎でアオダイショウが12個の卵を産みました。
- 3/4. ニホンコウノトリが交尾しました。
- 3/5. プタオザルのオスが下痢をしたので治療を始めました。

3月6日 エミューが1羽ふ化しました。これは1月7日に産卵し、その日からふ卵器に入れ人工ふ化を試みていたもので、ふ化日数は58日、ふ化直後の体重は393gでした。



キーウィが今期、初めて産卵しました。7歳のオランウータンのメス“モモコ”が初潮を迎えました。

- 3/7. 2月28日に入園したオスのダマジカを以前から飼育している2頭のメスと同居させました。チュウゴクオオカミのオス“ムスタン”とメスの見合いを始めました。
- 3/9. ジュケイが1つがい来園しました。バーバリシープの赤ちゃんが1頭生まれました。
- 3/10. ヒヨドリを1羽保護しました。

3月11日 3月6日に産卵したキーウィの卵を人工ふ化させるため、ふ卵器に入れまし



た。有精卵であれば75日後でふ化する予定です。

フンボルトペンギンの産卵を確認しました。

3月15日 ホッキョクグマ母子の一般公開を始めました。この赤ちゃんは運動場に出



すぐ後にプールに落ちてひやひやさせましたが、母親がうまくくわえ上げました。赤ちゃんは今年の11月27日に生まれたものです。

今月もおもしろ情報満載

## ZOO DIARY



- 3/17. ジャガーが交尾しました。
- 3/18. 漫画家の根本進氏が取材のため来園されました。
- 3/21. アミメキリンのオス“ナガヤ”とメス“ハルミ”が交尾しました。

3月22日 ヒクイドリのオスとメスの終日同居を始めました。このペアは1991年にシンガポール動物園から贈られたものですが、ずっと別居して



てから数回、昼の間のみ同居を試み、相性が良いと判断し同居させました。

ニホンジカのメスのひづめが伸びていたため、切りました。

3/24. カナダヅルが1つがい来園しました。検疫が終わりしだい、ツル舎に展示する予定です。



3月25日 ニホンコウノトリの産卵を確認しました。昨年より1ヵ月も早い産卵ですが、全国平均よりはまだまだ少し遅いようです。昨年、初めてふ化、成育に成功していますので今年も期待しています。

- 3/28. ダチョウが産卵しました。
- 3/29. ジャングルキャット、ピューマが各々交尾しました。

### お知らせ

- 動物園のおじさんのお話「ペンゴDeガイド」(ワイスを楽しみながらガイドします。)日時:5月15日(日)午後1時~集合:新世界ゲート
- ヒツジの毛刈り日時:6月1日(水)午前9時30分~場所:ヒツジ舎
- テレフォンサービス 06-771-9999

愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修  
B5変型判・オールカラー  
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、  
自然の中ではどんな暮らしをして  
いるのか？ 動物園での世話  
の仕方は？ 仲間とは？ など、  
写真と精密イラストをまじえ紹  
介します。

くらしとかいかたシリーズ<既刊本>

B5変型判・オールカラー・各定価680円

### むしくらしとかいかた

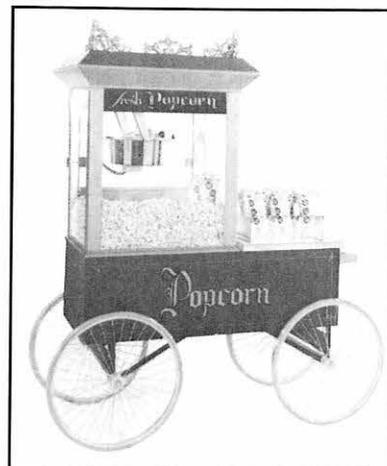
野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきものくらしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ ぴかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

## フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031  
OHVAC店  
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

# 動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する  
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家  
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉

会費/年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

## 動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」

19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800 (50度用)

## 天王寺動物園の本

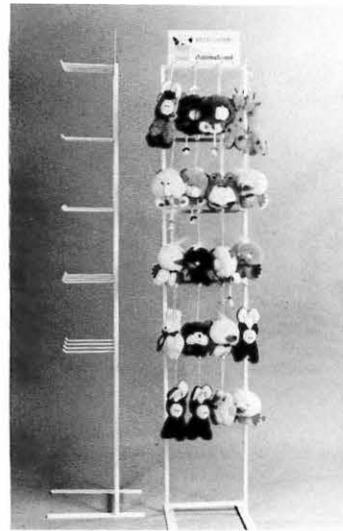
入園の記念・手引に……



オールカラー

500円 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

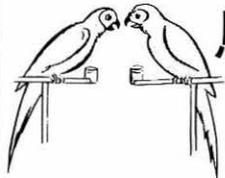


# 動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

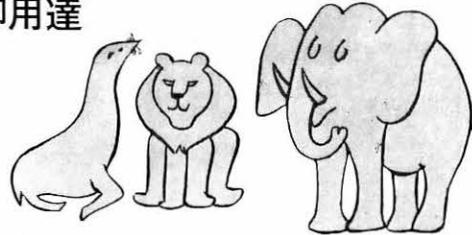
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号  
TEL: (06) 704-8580  
FAX: (06) 704-8565



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

### たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎  
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社  
電話 06-762-2333  
1回 20円

### 動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

## 中央売店

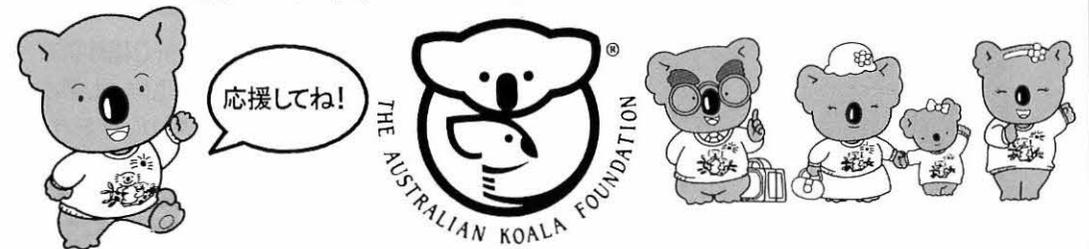
TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110



### 思いやり、ほんの少し、コアラのために。



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。  
多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、  
コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。  
コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

**LOTTE**



Our yogurt has fruity  
and rich texture!!



「ほりたてミルクのおいしさが、生きている。」

# 雪印 O-gurt

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



“生イキヨーグル”と  
覚えてね。

HIJIRI-KOJIMA

一日  
愉快に  
たのしめる!!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社  
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年5月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第5号 (通巻345号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)  
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/村上勇一/土谷正道/仁田原洋)